

空き家は 課題ではなく 資源!!
この資源を活かして
あなたらしく
夢へのチャレンジをしませんか?

リノベーションは
“過去と未来” “人と人” “建物とまち” をつなぐ
新たなビジネスの可能性を秘めています

はじめに

空き家(遊休不動産)は全国的に増加傾向にあり、県内でも人口の減少に伴い増加するものと考えられます。空き家は、防災・防犯・衛生・景観等の面で大きな問題を生じさせ、いわゆる「空き家問題」として危惧されています。

一方、空き家には、資源としての価値もあります。空き家のリノベーションは、一般的に初期投資を抑えられることや、事業開始までの期間を短縮することが可能であり、自分の夢を実現させる近道になり得ます。また、ひとつのリノベーションが次のリノベーションを呼び込み、にぎわいが生まれることによりそのエリア全体の魅力が向上するなどの効果も期待できます。

県内では、空き家をリノベーションして、自分が思い描くビジネスを実現させようとする事例が次々と生まれています。本パンフレットでは、その取組の一部の事例についてインタビューをもとに紹介しています。

空き家の活用方法に答えはありません。「誰か」ではなく、「あなた」が。あなたの住むまちを楽しくすることができるのはあなただけです。この資源を活かして、あなたらしく夢へのチャレンジをしませんか？

岩手県内の空き家活用事例を紹介。

目次

はじめに

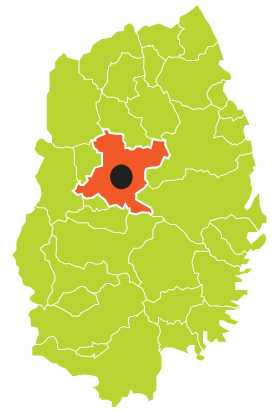
活用事例

事例1	十三日(盛岡市)[事務所→複合商業施設]	02
事例2	フキデチョウ文庫(盛岡市)[飲食店→通所介護施設]	03
事例3	遠野醸造TAPROOM(遠野市)[酒屋→コミュニティブルワリー]	04
事例4	小上がりと裏庭と道具U(遠野市)[飲食店→フリースペース]	05
事例5	小友ビル(花巻市)[事務所ビル→小型商業施設]	06
事例6	Cafe&Living Uchida(奥州市)[画材店→カフェ&託児]	07
事例7	ゲストハウス3710(宮古市)[メガネ屋→ゲストハウス]	08
事例8	co-ba kamaishi marudai(釜石市)[土産物店→シェアオフィス]	09

活用事例案内図

十三日(盛岡市) [事務所→複合商業施設]

株式会社モリノバは、盛岡市肴町の岩手県味噌醤油工業協同組合が所有する昭和初期に建てられた木造の建物をリノベーションし、複合商業施設「十三日(トミカ)」として2017年5月にオープンしました。



●お話を聞いた方
株式会社モリノバ
取締役 金谷克己氏(中央)

●事業の内容

1階は、南部鉄器を使う肉のグリルレストラン「ステーキ & グリルMARU3(まるさん)」と地元産のオーガニックな食材を使った料理を提供する「Epicerie Citron(エピスリーシトロン)」が店舗として入居しています。2階は、同社が運営し24時間利用できるシェアオフィス「BUNBO(ぶんぼ)」が入居しています。その他として、物販・展示・ワークショップ・ミニイベントなどができる小さなレンタルギャラリーや、開放的な半屋外でイベントなどに使えるフリースペース「ザ・ガレージ」があり、新たにシェアスタジオもオープン予定です。



●事業を興した動機・経緯

人とまちが出会う場所を作りたいという想いから、はじめは小さくてもいい、補助金に頼らずに、緩やかなつながりを持って、しなやかに継続できる場所づくりをめざしました。



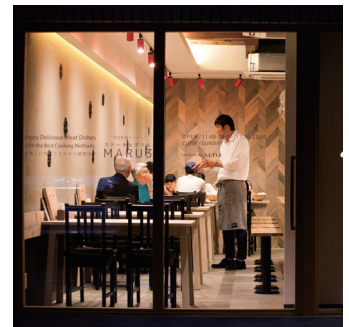
リノベーション前に行われたお披露目イベント

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2015年4月
物件探し → 約14か月 2015年4月～2016年6月
資金調達 → 約5か月 2016年6月～2016年11月
テナント募集 → 約6か月 2016年6月～2016年12月
リノベーション → 約5か月 2016年12月～2017年4月
オープン → 2017年5月



外観



グリルMARU3

●家主との関係(賃貸、原状復帰義務なし)

自分たちの活動を周知するために始めたまちづくり勉強会「盛岡さんぽ会議」に偶然参加していた岩手県味噌醤油工業協同組合の理事がリノベーションに興味を持ち、取り壊し予定だった同組合所有の施設を見学させてくれたことからリノベーションを行うことになりました。現在も、複合施設の一面に組合の事務所が置かれています。



BUNBO



Epicerie Citron

●地域との関係

ガレージやギャラリーという場の特性を生かし、十三日に入居している事業者以外の地域住民等も巻きこみ、ウォーキングや座禅などのイベントに活用しています。

当社が運営している2階の「BUNBO」でも異業種の交流を促すようなセミナーを開催することで、相乗効果による新たな取組が生み出されるような場をつくっています。

●今後の展開、展望

まちづくりは私たちのような会社ではなく、住んでいる人たちが行うものです。十三日をきっかけに、空き家の活用や盛岡が盛り上がる活動が進んでいくことを願っています。

また、公的資金を入れず、低費用でリノベーションを成功させれば、まちづくりに取り組む人も増えると思います。

●ポイント

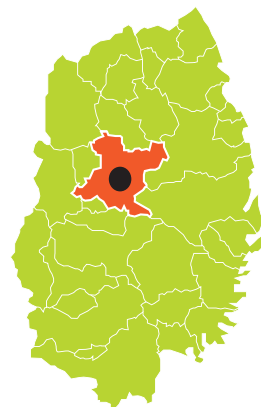
理想はあります。天井や床が汚く、そのことに集中してしまうときれいに改修したくなりますが、壁をきれいにすることにより天井や床に目がいかなくなります。そのような事例を色々見て勉強すること、何のために事業をするのか、継続できる事業にするために何が必要か考えることが大切です。



事業者名：株式会社モリノバ
所在地：盛岡市肴町10-10
TEL：019-601-6913
HP：<http://www.tomika.jp/>
FB：<https://www.facebook.com/morioka.tomika/>

フキデチョウ文庫(盛岡市) [飲食店→通所介護施設]

超高齢化社会において、地域がしっかりしていることが大切であり、何かの時には地域の人に協力できるような地域に愛される施設になればということから、一般社団法人しあわせ計画舎は「本 × 福祉 × まち」をコンセプトにした通所介護施設「フキデチョウ文庫」を、2013年7月に開設しました。



●事業の内容

指定居宅介護支援事業を始めとする地域密着型福祉サービス、図書スペースや共有スペースを活用した子どもの居場所づくりなど地域の方が自由に使える空間の提供。イベント利用への場の提供も行っています。

●事業を興した動機・経緯

介護施設等で働いていた経験を活かし、「街に住む誰もが立ち寄れる介護施設」をつくることで、利用者さんが社会とつながっている感覚を持てる空間を目指しています。

2012年春に盛岡市内で開催された『『本の街もりおか』の可能性を考える』というトークイベントをきっかけに、「通所介護施設」と「図書館」を組み合わせることで交流できる場をつくろうと考えました。

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2012年10月
 物件探し → 約2か月 2012年11月～2012年12月
 資金調達 → 約6か月 2013年1月～2013年6月
 リノベーション → 約4か月 2013年3月～2013年6月
 オープン → 2013年7月

●家主との関係(賃貸、原状復帰義務なし)

家主とは物件探しをしていて知り合い、良好な関係を保っています。物件を決める際には家賃交渉などは特に行っていません。

●地域との関係

町内会や地域のPTA等との関係はあり、スペースを開放しているため、どなたでも利用できるようにしています。

そのため、通所介護施設利用者だけではなく、年代をこえた人たちが訪れ賑わいがうまれています。

●今後の展開、展望

今後は、「地域のハブ機能」として、何かをしたい人の応援をしたいです。利用の目的はそれぞれであり、気軽に訪れるような公園のような場であってほしいので、意図的ではない、自然発生的な交流が理想です。

また、平成29年度から取り組んでいる子どもの居場所としての機能や相談支援を担うスタッフの安定確保を目指していきたいです。



●お話を聞いた方
 一般社団法人しあわせ計画舎
 代表理事 沼田雅充氏



リノベーション中



リノベーション後のエントランス



館内の様子



事業者名：一般社団法人しあわせ計画舎

所在地：盛岡市中ノ橋通一丁目8-6

TEL：019-624-2220

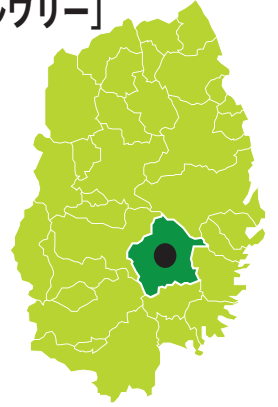
FB: <https://www.facebook.com/一般社団法人-しあわせ計画舎-542827479060757/>

活用事例

3

遠野醸造TAP ROOM(遠野市) [酒屋→コミュニティブルワリー]

「コミュニティブルワリーを作ろう」と掲げていた私たちは、元酒屋だった建物をリノベーションしました。お店ができるまでを共有し、市民の方や応援してくれる方にも、醸造所づくりに参加してもらい、2018年5月に、遠野醸造TAP ROOMを遠野駅の近くに開業しました。



●事業の内容

クラフトビールの醸造と、ここで作られたビールを提供するレストランの運営を行っています。「ビールの里」を目指し、共有とつながりを生み出す「コミュニティブルワリー」を目指しています。

●事業を興した動機・経緯

遠野はホップの里として知られていますが、ホップ農家が減少していました。そこで、ビールの醸造や地元食材とともにビールを提供することを通じ、町の拠点となるブルワリーをつくり、新たなビアカルチャーを醸成していきたいと、地域おこし協力隊のメンバーでビールプロジェクトを立ち上げました。

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2016年3月
 物件探し → 約6か月 2017年4月～2017年10月
 資金調達 → 約3か月 2017年11月～2018年2月
 リノベーション → 約5か月 2017年12月～2018年4月
 オープン → 2018年5月

●家主との関係(賃貸)

メンバーが街中を歩いている時に物件を見つけ、不動産会社から家主を紹介してもらいました。また、家主からも私たちの取組を理解していただいています。

●地域との関係

地元のお祭りやイベントに参加(出店)し、地域の人たちと良好な関係を築いています。また、レストランは地域の皆さんに利用してもらうほか都市部からの来訪者も多く、交流空間となっています。

●今後の展開、展望

ビールをハブに新しいコミュニケーションがどんどん生まれていき、そんな街で暮らすことが豊かさにつながるような「コミュニティブルワリー」をつくっていきたいです。



●お話を聞いた方
 株式会社遠野醸造
 取締役 田村淳一氏(一番左)



リノベーション前



外観



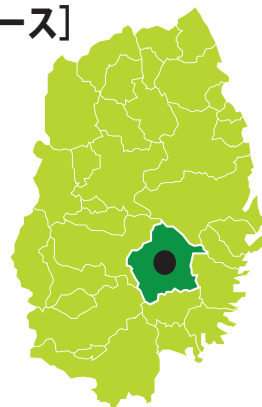
店舗



事業者名: 株式会社遠野醸造
 所在地: 遠野市中央通り10-15
 TEL: 0198-66-3990
 HP: <https://tonobrewing.com/>
 FB: <https://www.facebook.com/tonobrewing/>

小上がりと裏庭と道具 U (遠野市) [飲食店→フリースペース]

Next CommonsLab 遠野は、それぞれがそれぞれの目的で過ごしたい様に過ごすことができる「居場所」、言うなれば「次世代の公民館」を『小上がりと裏庭と道具 U』という名で 2018 年 7 月にオープンさせました。小上がりと裏庭と、そこにある道具を使って何をするのかはあなた次第という場を提供しています。



●お話を聞いた方
Next CommonsLab 遠野
ディレクター 家富万里氏



●事業の内容

「人・もの・コト」の交流拠点として開設し、次世代公民館をキャッチコピーに事業を展開しています。レンタルスペースとして貸出しているほか、イベントがない時は自由に活用できる「居場所」を提供しています。また、スタッフは、隣接するカフェのスタッフが兼ねることで効率的な事業運営を行っています。

●事業を興した動機・経緯

遠野市と連携し、2016年より地域おこし協力隊制度を起業に特化して活用する「遠野ローカルベンチャー事業」を開始。現地法人の(株)Next Commonsを立ち上げ、移住者に対し起業支援を行ってきました。活動のなかで、人やもの、コトが交わる拠点の必要性を感じ、リノベーションによる拠点の整備を行いました。

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2017年 6月
物件探し → 約1か月 2017年 6月～2017年 7月
資金調達 → 約4か月 2017年11月～2018年 3月
リノベーション → 約6か月 2018年 2月～2018年 7月
オープン → 2018年 7月

●家主との関係(賃貸、原状復帰義務なし)

市役所職員の実家で、活動拠点の Commons Space に隣接していた場所であったことや処分等も検討していたことから借りることになりました。家賃交渉はせず、話し合いの中でなんとなく決まったような形です。関係は、良好で、厳しくやさしく応援してくれています。

●地域との関係

活動拠点の Commons Space と小上がりと裏庭と道具 U もそうですが、ローカルベンチャー事業を通じて、中心市街地の計 4 軒の空き屋に明かりが灯るようになりました。

●今後の展開、展望

動機にもありますが、居場所づくりと困り事解決にむけた仕組みの整備、小さな仕事のマッチングなどをしていきたいと考えています。また、高校生など若い人もどんどん巻き込んだ「気づきの場」をつくりたいと考えています。ハード面では、2階を宿泊施設として整備する予定です。また、レンタルスペースとして認知度アップを図り、利用者増を目指します。

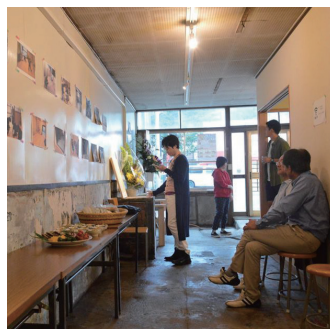
※Next CommonsLabとは、さまざまな領域で活動するメンバーが集まり、プロジェクトを通じて地域社会と交わりながら、資本主義社会のみに頼らない多様な働き方や生き方を論議し実行する場。



リノベーション中



外観



館内



館内



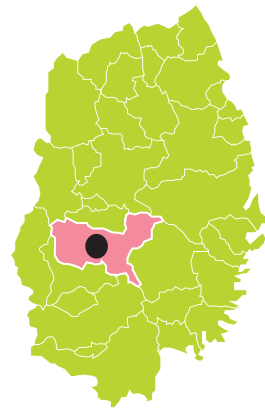
事業者名: Next CommonsLab 遠野
所在地: 遠野市中央通り5-32
TEL: 0198-68-3077
FB: <https://www.facebook.com/u.ncltono/>

活用事例

5

小友ビル(花巻市)[事務所ビル→小型商業施設]

株式会社花巻家守舎は、花巻駅前エリアを「チャレンジする大人が集まるまち」にすることをめざし、10年以上も使われていなかった小友ビルの1、2、4階をリノベーションし、小型商業施設として2015年12月にオープンしました。



●事業の内容

建物全体の管理を小友木材店から当社(株)花巻家守舎が受託しており、1・2・4階の入居テナントから賃料等を回収しています。

1階は、飲食店「JOE'S LOUNGE」、2階は、コーヒー、焼き菓子、麴、雑貨を扱うコンセプトショップ「Marble」、4階は当社が運営するシェアードワークプレイス「co-baHANAMAKI」が入居しています。

当社は、入居した後のテナントに対しても手厚くフォローしており、テナントの利益向上のためのイベント企画や集客といった後方支援もしています。

●事業を興した動機・経緯

私(小友康広氏)の実家である小友木材店が所有する小友ビルの空きフロアの活用が進んでいなかったことや、2014年11月に花巻市が主催した「家守勉強会」への参加、2015年2月に北九州市で開催された「家守ブートキャンプ+リノベーションスクール」をきっかけに、小友ビルを対象に具体的にどうしたいか事前にプランを考えることから始めました。

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2015年2月
 資金調達 → 特になし(各自の預金から)
 テナント募集 → 約1か月 2015年3月
 リノベーション → 約7か月 2015年5月～2015年11月
 オープン → 2015年12月

●家守としての配慮

各テナントから受け取る賃料は、入居前に「いくらなら出せるのか? 入りたいのか?」という希望価格をベースにした金額に設定しており、その賃料収入でできる範囲で改修工事を行っています。また、開業後の段階的な拡張を支援するなど、入居テナントの経営が行いやすいように支援しています。

●地域との関係

人通りについては変化がないかもしれませんが、ただ、このことについては特に重視していません。それよりも、チャレンジする大人が集まって、そこに共感とお金を落としてもらえるかが重要だと考えています。

当社が活動を開始する前と比べて、周辺エリアにチャレンジする人が約30人増えており、近隣にコンビニができるなど、3～4件の遊休不動産の活用が行われています。

●今後の展開、展望

駅前エリアにチャレンジする大人、この場所でビジネスを新たに起こす人や新しい挑戦に挑む人がでてくるのが目標です。それは当社が介在してもしなくてもどちらでもいいことだと思っています。



●お話を聞いた方
株式会社花巻家守舎
代表取締役 小友康広氏



リノベーション前



外観



シェアオフィス(4階)



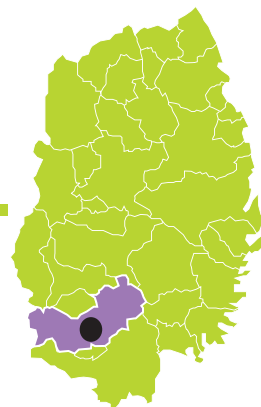
シェアオフィス(4階)



事業者名: 株式会社花巻家守舎
 所在地: 花巻市大通り一丁目4-14
 TEL: 090-7664-1749
 FB: <https://www.facebook.com/hanamakiyamorisha/>

Cafe&Living Uchida (奥州市) [画材店→カフェ & 託児]

オーナーの川島佳輔氏はフリーランスデザイナーとして3年間活動し、2016年12月に(株)コカゲスタジオを設立。「くらしに、豊かな1ページを。」をビジョンに掲げ、奥州市でカフェと託児所を併設する「Cafe&Living Uchida」を2017年6月にオープンしました。



●事業の内容

1階はカフェ兼認可外保育所(託児所)、2階は古道具を売るお店(古道具 FUCHI)、3階は(株)コカゲスタジオ編集部のデザインオフィスがあります。

特徴は、カフェと託児所が併設されていて、子どもたちが楽しそうに過ごしている様子をカフェから眺めることができます。

●事業を興した動機・経緯

子育て世代の暮らしがより豊かになるための場所として託児所をつくりたい。託児所にカフェを併設し、多くの世代が気軽に立ち寄れる場に、まちぐるみで子育てをする景色を見たいというところから構想をスタートしました。

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2016年1月

物件探し → 約2か月 2016年10月～2016年12月

資金調達 → 約2か月 2016年12月～2017年1月

リノベーション → 約5か月 2017年1月～2017年6月

オープン → 2017年6月

●家主との関係(賃貸、原状復帰義務なし)

もともとJR水沢駅の東口で50年もの間、額縁や画材を販売する「アートショップウチダ」というお店でした。閉店されるのを機に、大家さんへ連絡して、自分の考えているプランを説明したところ、このビルを改装して使うことを快く承諾していただきました。

店内にはアートショップウチダから引き継がれた椅子やテーブル等も置かれています。

●地域との関係

Cafe & Living Uchidaができたことで人の流れは変わってきていると実感しています。通りを若い人が通るようになったり、週末には盛岡や仙台からもお客様が来てくださっています。訪れた人の中には、近隣の空き家等を見て「何かしたい」という話も聞くようになってきました。

●今後の展開、展望

事業としてよりも、この辺のエリアにお店が集まってほしいです。そしてお互いが関わり合うことで訪れる人も増えるでしょうし、雇用も増えると思います。それにより、エリア全体が賑やかになっていけばと考えています。

●ポイント

改装コストをできる限り抑えつつ、良い空間をつくるために、空間デザインと施工の一部を業者に依頼して、DIYできる部分はDIY素人の自分たちで行うハーフビルド形式でリノベーションに挑戦しました。5か月間の改修期間のうち大工さんに依頼したのは3週間程度です。

また、リノベーションに向け、解体する古民家等から古材を集めるなど、リノベーション開始前から準備を進めました。



●お話を聞いた方

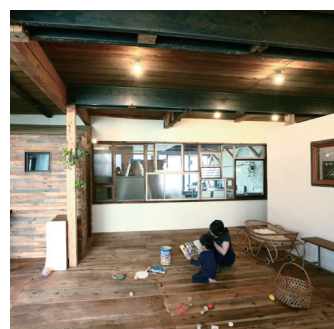
株式会社コカゲスタジオ
代表取締役 川島佳輔氏



リノベーション前



外観



託児スペース



cafe スペース



事業者名: Cafe&Living Uchida

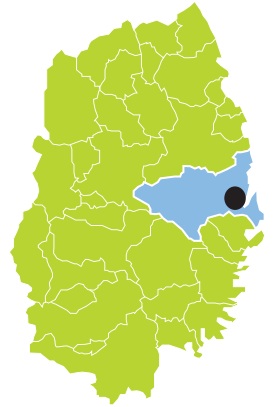
所在地: 奥州市水沢区東大通り1丁目5-35 1F

TEL: 0197-47-4158

FB: <https://www.facebook.com/cafelivinguchida/>

ゲストハウス3710（宮古市）[メガネ屋→ゲストハウス]

株式会社日々旅は、「これからも、宮古に関わる人を増やしていきたい」「この先も、仲間たちと宮古を元気にしていきたい」という想いから、約50年間宮古市の中心部でメガネ店を営んでいた物件をリノベーションして、2018年8月にゲストハウスをオープンしました。



●お話を聞いた方
株式会社日々旅
プロジェクトリーダー 早川輝氏
(右から2人目)



リノベーションの様子



ゲストハウス



オープニング

●事業の内容

観光客に宿泊してもらい、地元の人を巻き込んだ交流の場となるようにゲストハウスとカフェバーを併設しています。また、観光案内を行うほか、今後は体験プログラム等の紹介やマッチングも想定した着地型観光の窓口を兼務する予定です。

●事業を興した動機・経緯

東日本大震災から8年が経ち、復旧復興は着実に進んでいるものの、震災前からの人口流出など、未来に対する漠然とした不安は拭えていません。一方で、震災を機にボランティア等で地域に入った自分たちのようなよそ者を、地元の人たちが受け入れてくれました。そこで、この先もボランティア活動等で知り合った仲間たちと宮古を元気にしていきたいと考えた、これがこのプロジェクトの原点です。

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2017年11月
物件探し → 約4か月 2017年11月～2018年2月
資金調達 → 約7か月 2017年12月～2018年6月
リノベーション → 約4か月 2018年5月～2018年8月
オープン → 2018年8月

●家主との関係(賃貸、原状復帰義務なし)

物件については、商店街振興組合の理事長から紹介していただきました。大家さんの意向としては、そのまま買い取ってほしいということですが賃貸で借りることにし、原状復帰義務はありません。

●地域との関係

商店街の中に位置しており、周辺は日用品などの小売店が多く、今のところゲストハウスのお客様に足を運んでもらうなどの波及効果はでていません。一本違う通りには飲食店が並んでいるため、そちらはお客様に紹介しています。

●今後の展開、展望

2019年1月にオープンしたゲストハウスの1階にあるカフェバーに地域の方が来てくださり、旅行者と地域の方が交流できるような場を作っていきたいです。また、自分たちがモデルとなることで、商店街にある空き店舗が若者の手で埋まるきっかけとなればと考えています。



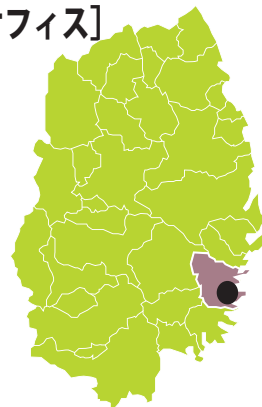
ゲストハウス 3710
GUEST HOUSE MINATO



事業者名: 株式会社日々旅
所在地: 宮古市末広町4-6
TEL: 0193-77-3710
FB: <https://www.facebook.com/guesthouse3710/>

co-ba kamaishi marudai (釜石市) [土産物店→シェアオフィス]

株式会社宮崎建築事務所は、東日本大震災の復興支援を機に釜石市に関わるようになり、「釜石にやってくる人」「戻ってくる人」「元々住んでいて新しい働き方を求める人」そんな人たちが集まり、それぞれに未来を作るための場所を作りたいという想いが生まれ、釜石大観音仲見世商店街にあったマルダイという土産物店だった建物をリノベーションし、2018年5月に co-ba kamaishi marudai をオープンしました。



●事業の内容

シェアオフィス運営を行っています。シェアオフィスでは、仕事の間としての利用だけではなく、イベントスペースとしても利用できるよう貸し出しを行っています。

●事業を興した動機・経緯

東日本大震災で被害を受けた岩手県沿岸に復興支援のために訪れ、建物、インフラを復旧する設計の傍ら、産業の再生による経済的な面での復興のために、釜石大観音仲見世リノベーションプロジェクト(以下、「仲見世P J」)を始めました。

その活動の一環として、起業家、個人事業主等が集う場所を作り、その中から新たな商店を始める人が現れることを期待し、シェアオフィスの運営を始めました。

●事業を興すまでのスケジュール・期間

事業を興す意思が固まる → 2017年4月
 物件探し → 約1か月 2017年4月～2017年5月
 資金調達 → 約2か月 2018年2月～2018年4月
 リノベーション → 約10か月 2017年6月～2018年4月
 オープン → 2018年5月

●家主との関係(購入)

釜石大観音仲見世商店街の住民から紹介してもらいました。「marudai」の名称は、以前のお土産店の屋号(マルダイ)でオーナーから許可を得て使用しています。

家賃については、賃貸契約ではなく、物件を購入する形を取りましたが、希望額を聞き、その金額で取引しました。

●地域との関係

周辺敷地の地主である釜石大観音(石応寺)には、仲見世P Jの活動と合わせて歓迎されています。近隣への波及効果としては、同じ商店街で、シェアオフィス会員であり起業型地域おこし協力隊のメンバーなどが民泊を始めたり、セレクトショップ、カフェの開業準備を始めたりしています。

●地域からみたリノベ施設

近隣からは、「都会から釜石に移住した若い人が来るようになって、雰囲気明るくなった。」「他の建物もリノベーションしてほしい。」という好意的な声をかけてもらっています。

●今後の展開、展望

シェアオフィスとしては、会員の起業支援を行い新しい産業や働き方が生まれる場所にしたいです。

また、店舗の再開や新規事業による雇用の創出、子育て支援、子育て世代の雇用、プチワーク支援といったことにも取り組み、地域の人が集まり交流が生まれる場所にしたいです。



●お話を聞いた方
co-ba kamaishi marudai
プロジェクト代表 宮崎達也氏



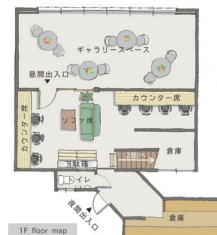
リノベーション前



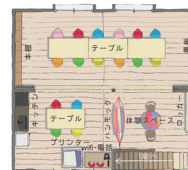
リノベーション中



リノベーション後のシェアオフィス

シェアオフィス
レイアウト

1F floor map



2F floor map



事業者名: 株式会社 宮崎建築事務所
 所在地: 三重県鈴鹿市(本社)
 釜石営業所: 釜石市大平町3-9-1
 co-ba kamaishi marudai内

TEL: 0193-27-8638

HP: <https://co-ba.net/kamaishi/>

FB: <https://www.facebook.com/KamaishiMarudai/>

活用事例案内図

事例1 十三日（盛岡市）



事例5 小友ビル（花巻市）



事例2 フキデチョウ文庫（盛岡市）



事例6 Cafe&Living Uchida（奥州市）



事例3 遠野醸造TAPROOM（遠野市）



事例7 ゲストハウス3710（宮古市）



事例4 小上がりと裏庭と道具U（遠野市）



事例8 co-ba kamaishi marudai（釜石市）



